

2015年4月度

第44回野田村仮設住宅訪問活動報告

2015年5月9日(土)
報告：松坂有佳子(旭川東光教会)

実施日：2015年4月17日(金)

参加者：15名

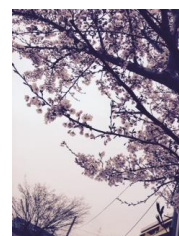
(敷教会4名、八戸教会4名、青森教会3名、三沢教会1名、八戸聖書教会1名、北三陸教会1名、旭川東光教会1名)
お茶会用持参品：パウンドケーキ、マドレーヌ、クッキー、りんご、イースターエッグ、イースターチョコレートなど
門前・下安家・米田地区仮設個別配布用品物：ボディソープ、タオル



第44回目の働きも、まずは主の前にひざまずき、「万策つきるような中に神の憐れみによって与えられるキリストの平和」をみ言葉に示され、祈りによって一つにされて出発しました。

今回も主にある仲間と楽しく賑やかな道中を与えられ、初めて参加された方が「もっと重労働のつもりで参加しましたが、こんなに楽しくてよかったのでしょうか」と言われたほどでした。

野田村は、水仙やレンギョウがあちこちに咲き、また桜も例年よりも一ヶ月も早くほころび始め、すっかり春の景色でした。当日、野田中仮設住宅では5件の引越が予定されており、大きなトラックが何台も敷地内に入り、忙しそうに作業が進められていました。



お茶会には、この活動を覚えていただいている方から送られた焼き菓子や青森教会が用意してくださったりんごを提供させていただきました。またイースター直後ということで、イースターエッグのフィルムラッピングをして楽しんでいただきました。小規模仮設には、ボディシャンプーとタオルをお届けしました。



これからの転居の計画についての話題が多く聞かれました。

高台の造成団地に家を建てるようにした方が「家を流される云々よりも、津波の警報が出る度、いつ、何をしても、高台に避難しなければならないのが大変なんだ」と言われ、そういう理由で高台を選んだ人は少なくないと話され、驚きました。「3.11」後の避難所生活の大変さも尋常ではなかったそうで、避難を考えなくて済む家、共同体作りの大切さを痛感しておられるのだということが伝わってきました。



反対に浸水区域にも復興住宅が建てられ、そちらでの生活を選ばれた方々もおられます。家族構成や仕事、通院など状況も事情も、そこから出された結論も様々です。それらは被災された人でなくてはわからないことで、共同体の再生はやっぱり被災された方々が中心になるべきだと思われました。

ただただ、それぞれの今後に祝福を祈られます。